

第3回 基地集中という

人種差別・植民地支配



Nov. | 2023
沖縄開教本部通信
vol. 108



ハイサイ 沖縄

※「ハイサイ」…沖縄の言葉で「こんにちは」のこと



沖縄に米軍基地が集中している状況は沖縄の人々に対する人種差別であり、沖縄に対する植民地支配であることを、本稿では以下、琉球大学教育学部の島袋純教授（地方自治論、行政学）が立命館大学の研究論文集「立命館法學」2021年5・6号に寄稿した論文「琉球／沖縄の自己決定権について―なぜ提起されなぜ潰されようとするのか―」を参考に説明したいと思います。

国連人権理事会のドウドウ・ディエン氏による「現代的形態の人種主義、人種差別、外国人嫌悪および関連する不寛容に関する特別報告者による日本への公式訪問に関する報告書」（2006年）が提出され、沖縄への米軍基地の集中を「現代的形態の人種差別」であると指摘されました。この報告は国連の総括所見として共有されています。島袋教授の論文によると、

います。

6・14世紀から沖縄の人びとにより維持されてきた「琉球王国」は、1879年に日本政府に征服され、併合された。これにより、琉球の地域言語、伝統的な慣習、信仰および生活様式の禁止など、多くの植民地主義的・同化主義的政策が生み出された。1972年以降、日本における米軍基地の大多数が、日本国土の0.6パーセントに過ぎない沖縄に集中し、環境ならびに沖縄の人びと固有の文化・慣習に影響を及ぼしている。

（中略）

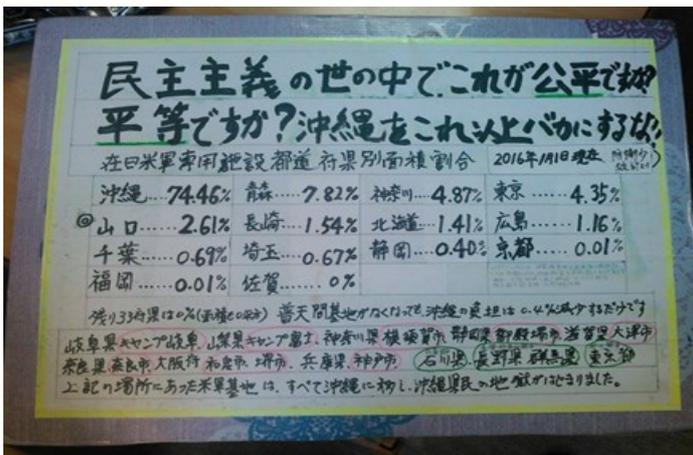
51・沖縄の人びとは、自分たちは1879年の（琉球）併合の時から差別的な政府の政策に苦しんでいると説明している。沖縄の人びとは、自分たちの島およびその将来に影響を及ぼす決定について協議の対象とされることがめつたにない。沖縄の人びとが現在耐え忍んでいる最も深刻な差別は、沖縄に駐留している米軍基地と結びついたものである。政府は「公益」の名の下に米軍基地の存在を正当化している。

ここで島袋論文は、国際的な人権の基準では「公益」は人権侵害

の正当化の根拠たりえないことを補足しています。差別はいつも「公益」の名の下に行われるからでしょう。これに基づいて、日本政府は2010年に国連人種差別撤廃委員会から改善勧告を受けています。

一方、2017年5月に朝日新聞デジタルが行ったアンケート調査によると、沖縄への米軍基地の集中は「本土」による沖縄差別だという指摘について、2637回答のうち「明らかに差別だ」が1757回答、「差別と言われるのはわかる」が316回答となり、78.6%が沖縄差別を認めています。

（照屋）



辺野古新基地建設の阻止行動の現場で掲げられた看板。抗議は日本社会に向けられている。

ハイサイ沖縄

沖縄は今！

辺野古新基地建設は

どうなるのか

名護市辺野古の新基地建設で、軟弱地盤改良工事に伴う沖縄防衛局の設計変更申請を県が不承認とした処分を巡り、国道交通相が県へ承認するように「是正の指示」を出したことの違法性が争われた訴訟の判決がでた。最高裁第一小法廷は

県の上告を棄却し、県の敗訴が確定し、県は承認する法的義務を負い、対応を迫られる事となった。

最高裁で県が敗訴したことを受けて8月5日県民集会が那覇市泉崎の県民広場で開かれ、県内各地から約700人が参加した。参加者は「辺野古新基地建設NO!」の青いプラカードを持ち「最高裁の沖縄の切り捨てを許さない」、「不当な判決に負けるな」、「沖縄

の民意がないがしろにされている」など怒りの声を上げた。県側の代理人の加藤裕弁護士は「地方自治を踏みにじる最低の判決」と最高裁判決について解説し糾弾した。一方、政府の司法の判断・工事の強行に諦めや複雑な思いを抱き肩を落とす人も見られた。集会終了後も参加者同士で話し合うなど熱が静まらない様子であった。

「お盆」

沖縄では四月に行われる「シーミー(清明祭)」でお墓参りをし、旧盆では家にある仏壇(位牌段)の前に親族が集い、団らんする文化がある。

別院は設立当初から預骨の需要があり、納骨段を設けている。シーミーの期間には参拝の方が多くなるが、今では位牌の預り希望も多く、現在預かっている総数

の約半分を占めている。そのため、預かっている位牌の前で「手を合わせて線香をあげたい」、「集まって団らんしたい」と、旧盆の三日間、参拝がひっきりなしに続く。

参拝には事前に予約をしてもらい、時間を区切って利用していただいている。参詣者の中には、以前法事を勤めさせていた家族もあり、久しぶ

りの再会に顔がほころぶ場面もあった。



御本尊の場所に法名軸をかけ、ご参拝いただいている。



「もう一つの物語」

コロナ感染が収まった中で旧盆を迎え、久しぶりに親戚一同が会える機会があった。久しぶりにいろんな話をする中で、結婚し親となった甥や姪たちとの話は、ずいぶん成長を感じることが多く、コロナ禍で過ぎ去った時間をあらためて再認識した。

いろんな話題の中で、首里城の話に及んだ。甥は火災で焼失する前は、あまり関心がなく、首里城に行ったのは数十年前前であるという。再建されたら行ってみたいという話であった。そんな中、首里城は「琉球処分」の際に明治政府の軍隊によって占領されたのだという話になった。これは「琉球国の併合」ということだよと話していると、県の重責におられる義兄から「日本側からしたら処分や併合だけど、沖縄側からしたら「侵略」なんだよ」と優しい言葉ではあったが、厳しい指摘をいただいた。

2014年新聞広告クリエイティブコンテストの受賞作品「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました。」を思い出した。桃太郎の話のもう一方の当事者、鬼の子の言葉として表現されている。桃太郎の話にも、立場が異なるもう一つの物語が存在するのである。

いま一緒にお酒を酌み交わしながらお盆を迎えることができている。しかしこの立場の違いを意識し、その事実が正直に向き合うことを勧める声として、お念仏が聞こえてくる。

沖縄別院輪番 長谷 暢